

Ⅱ 資料の収集・研究成果の公開

— 博物館資源センター —

[概要]

博物館資源センターは、資料の収集・管理と、研究成果公開の場である展示を中心とした、博物館事業を所管している。これらを効率的に運営するため、資料・修復担当者および情報・知財担当者による資料担当者会議、展示担当者による展示担当者会議、ならびにくらしの植物苑運営会議をふまえ、月例の博物館資源センター会議を開催して、実施に当たった。

1. 資料の収集・製作・保存管理

博物館における研究とその成果公開としての展示を行うために、資料の収集と保存管理はきわめて重要な事業である。資料収集は、共同利用性・継続性・柔軟性の3点からなる基本方針に基づいて進めている。以下、2020年度の受け入れ資料の一部についてその概要を述べる。購入資料としては、「兼仲卿暦記 自正安二年正月四日至二十一日」や「春日経供養家記抄」、「東都名所 高輪廿六夜待遊興之図」、「風流略五議・仁」、「阿蘭陀人江戸参府蒔絵筆筒」など、既存の館蔵資料を補完・充実させるものが挙げられる。また、昨年度に引き続き、第5・6室リニューアル関連資料として、開国や近代の国際化、産業化を意識した資料収集を行い、「伊勢暴動罹災民救助米につき褒状」、「近畿を中心とする名勝交通鳥瞰図」、「プラントン『日本図』初版」などを収集した。

また、昨年までと同様に正倉院古文書の複製製作を実施したほか、結納品（富山県氷見地方）一式など、実物資料9点、複製資料22点を汎用資料として受け入れた。

保存管理については、資料保存環境検討委員会の助言の下に、引き続き文化財害虫調査や、温湿度、資料コンディションなどの調査を進め、環境の改善や対策を検討した。

2. 展示活動

歴博は、歴史資料・情報の収集、整理、保存、公開という一連の機能を有する大学共同利用機関であり、特に、研究資源の収集と研究と展示とを有機的に連関させる「博物館型研究統合」というスタイルで、研究の成果および情報の発信を行っている。展示については、総合展示および企画展示、特集展示、くらしの植物苑における特別企画、人間文化研究機構の基盤機関が連携して展示を企画・実施する連携展示などをその具体的な活動として挙げることができる。

2019年の年末より世界的な流行となった新型コロナウイルスへの対応策として、2020年2月28日より6月29日まで、歴博は展示室閉室のやむなしに至った。2020年3月17日から5月17日までを会期として企画された企画展示「昆布とミヨクー潮香のくらしの日韓比較文化誌」は、ついに1日も公開することができなかった。また、2020年7月7日から9月6日までの期間で開催を計画していた国際企画展示「加耶—古代東アジアを生きた、ある王国の歴史—」についても開催延期のやむなしに至った。痛恨の極みである。

そのようななか、2020年10月6日～12月6日に企画展示「性差（ジェンダー）の日本史」を開催することができたことは喜びに絶えない。重要文化財やユネスコ「世界の記憶」を含む280点以上の資料を通して、ジェンダーが日本社会の歴史のなかでどんな意味をもち、どう変化してきたのかを問う歴史展示として、開催前から雑誌・新聞・テレビ・ラジオ・ネット媒体等で取り上げられ、大きな話題となった。展示図録は実に5刷を重ねている（2021年3月現在）。本展示は、今後のジェンダー展示・ジェンダー研究における里程標の一として、議論の起点としての役割を果たしていくことになる。

企画展示室における特集展示として東アジアを駆け抜けた身体（からだ）—スポーツの近代—（2021年1月26日～3月14日）、「海の帝国琉球—八重山・宮古・奄美からみた中世—」（2021年3月16日～5月9日）を実施した。

第1展示室の特集展示として「庫外正倉院文書（こがいしょうそういんもんじょ）と盤龍鏡（ばんりゅうきょう）—井上辰雄氏蒐集資料展」（2020年10月13日～11月15日）が開催された。これはもともと2020年春の開催を予定していたが、コロナ禍にともなう歴博閉館の影響を受けて、会期を変更して実施したものである。

第3展示室の特集展示「『もの』からみる近世」では、大津絵と江戸の出版（2020年8月4日～9月6日）、「海を渡った漆器Ⅲ—輸出漆器の技法」（2020年12月15日～2021年2月7日）、「桜の意匠」（2021年3月16日～4月11日）を開催した。

第4展示室の特集展示では、「日本の食の風景―「そとたべ」の伝統―」（2020年9月15日～11月29日）、「アイヌ文化へのまなざし―N.G.マンローの写真コレクションを中心に―」（2020年12月22日～2021年5月9日）を開催した。

くらしの植物苑では特別企画として、伝統の朝顔（2020年7月28日～9月6日）、伝統の古典菊（2020年10月27日～11月29日）、冬の華・サザンカ（2020年12月1日～2021年1月31日）を開催した。

2020年度に開催した上記展示のうち、第4展示室特集展示「日本の食の風景―「そとたべ」の伝統―」においては、自己点検・評価をおこなったのち、外部評価委員会による点検・評価を受けた。展示評価は、2018年度、2019年度の2ヵ年の試行を経ての本格実施であり、その際指摘された諸課題のなかから、今後開催する特集展示に活かすことが期待できる事項を取り上げて検討を重ねることで、具体的な対応（フォローアップ）をおこない、展示の改善につなげていきたい。

3. 情報発信

歴博の資料収集方針にもとづき蓄積された資料は、資料調査プロジェクト等により、研究資源として有効利用されるために必要な情報が付与され、館蔵資料データベースとして公開されているが、さらに踏み込んで、より高次の研究情報を付与した目録・図録、あるいはコレクションに特化したデータベースなどの形で公開されている。

博物館資源センター長 鈴木卓治